

大和合金 17年度 売上高50億円目指す 欧州で航空機向け拡販

銅合金の鑄造・鍛造品メーカーである大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は2017年度の売上高で過去最高となる50億円を目指す。前年度比で約5%の増。航空機関連製品の

販売が欧州の新規顧客開拓などで伸びることに加え、合わせて半導体向けや自動向けも導体向けや自動向けも底堅い水準を見込む。経常利益は販売増に加え、生産性や歩留まりの向上で全部門を黒字化するなどして増益を

目指す。同社では成長分野に位置付ける航空機向けで、軸受に用いる円筒形のブッシュと呼ばれる鍛造・押出品を販売。16年度の売上高は航空機向けで在庫調整が一服したことなどから数

割増の約46億円となる見通し。前年度に引き続き過去最高となる。17年度の売上高は昨年末に航空機関連で欧州大手の顧客から認定を受けたことなどから拡大する見通し。加えて航空機関連の顧客基

盤をさらに広げるほか、市場拡大が見込まれる新エネルギー関連市場の捕捉も進める。生産性や歩留まりの向上では社外の専門家の助言を活用するほか、中長期的な設備投資を検討する。萩野社長は「今後は少量多品種に加え、中規模な受注も狙いながら事業規模を拡大させる。ただ中小企業的な風通しの

良い社風は守っていき
たい」と話している。